

ライオン学校伝書鳩通信

～小学校の復興・真夜中の地震・定着力～



小学校の学芸会 新しい体育館の建設

今回の支援は 10 月 19・20 日に行うことになり、子供たちには事前にはがきでお知らせをしました。すると、小学校の子供たちから「19 日は小学校学芸会がある」と連絡があり、昨年同様、学芸会を参観することになりました。小学校は震災の影響で床が傾いていて使用できず、今年も昨年と同様に、学芸会は中学校の体育館で行われました。しかし、昨年と状況が全く同じというわけではありません。中学校へ向かう途中、小学校の敷地内で建設途中の体育館を見ることが出来ました。この体育館は今年度の小学校の卒業式に間に合うように急ピッチで建設されているようで、学校に体育館ができることを子供たちは、とても楽しみにしているようです。このあたり一帯が東日本大震災の地震によっておよそ 1m 地盤沈下しています。そのため、中学校にも壊れたままの箇所がいくつも見られます。震災から 3 年目、子供たちが安全に学校に通えるために、「学校の復興」がようやく進んでいる様子を見ることが出来ました。

真夜中の地震と懐中電灯

子供たちは学芸会が終わると急いで家で着替えて仮設の集会所に集まってきました。子供たちは相変わらず元気いっぱい！学校も順調だそうです。

みんなで遊んでいるなか、小学 5 年生のある男の子が「今日、一緒に泊まってもいい？」と言いはじめました。その日は家族が皆出かけてしまい、家に一人になってしまったとのことでした。そこで親御さんに了解を得て、彼は私たちと一緒に仮設の集会所に宿泊することになりました。

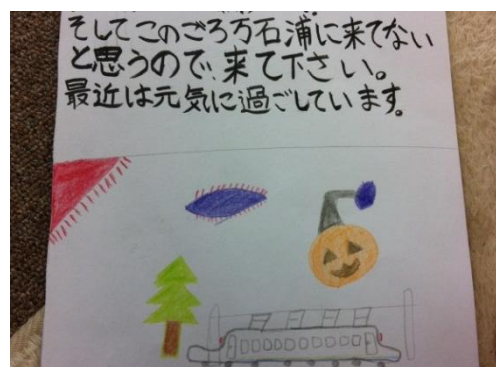


消灯の頃、彼は靴からよく光る懐中電灯を取り出して私たちに見せてくれました。そしてそれを枕元に置き、スタッフとまさに「川の字」になってしりとりをしながら、いつの間にか皆眠っていました。ところが、急に強い揺れを感じ、目を覚ましました。真っ暗な仮設の集会所はガタガタと揺れ、とても不気味でした。彼は枕元の懐中電灯をすぐに点け、私たちはお互いの様子を確認しました。私たちが眠っていたところは、近くに折りたたみの机や椅子が積んであり、倒れてくると危ないので、安全そうなところに皆で移動し、再び横になりました。「夜に地震が来ると何も見えないから余計に怖いね」とスタッフが言うと、彼は以前、夜中に震度 6 の地震が来たとき暗闇の中で食器が割れ、とても恐かったことを話してくれました。そして「地震はいつ来るかわからないから。来ないと思っ

ているときに来るから怖いよ。」と言っていました。彼が何気なく枕元に用意した懐中電灯は、何度も今回のような体験をしているために身についたことなのかもしれません。「地震はいつ来るかわからない」誰もが分かっていることなのですが、彼が発したこの言葉の中には彼がこれまで経験した地震に対する強い恐怖感が含まれているように感じました。

学んだことをできること

今回の支援では今まで来ていた先生にお手紙を書く時間がありました。ある中学生の女の子は、文章を書くとき、紙にスペースがあっても紙の隅の方だけを使って小さな字を詰めて書いてしまうという癖がありました。しかし今回、彼女は自分で紙の大きさを決め、文字を書く部分に線を引き、その上に鉛筆で下書きをして、太いペンで丁寧になぞっていました。写真からも分かるようにとてもきれいな字が書けていました。空いた部分に書かれた絵を見ても色合いなども素敵で上手にかけています。



(上の写真は手紙の一部より掲載)

次の日に、この子の担任の先生とお会いしたときに話を伺うと、彼女は最近、担任の先生と「字を大きく書く練習」をしていたそうです。また、中学の校長先生も彼女のことを気にかけて、放課後、手紙を書く練習を一緒にやられていたそうです。これらの時間を通して学んだことは、彼女の中で確実に定着しており、力となっていると感じました。これは彼女が身近に信頼できる大人を見つけはじめているからこそ成し遂げた成長ではないかと思います。

これまで彼女はライオン学校の活動の中でも生活習慣を改善するために、様々なトレーニングを行ってきました。しかしその時は出来ても、家に帰ったり、環境が変わったりすると、出来なくなることばかりでした。今回の支援の中で彼女が書いた手紙は、初めて彼女が、環境が変わっても学んだことが出来ている瞬間でした。担任の先生はなかなか彼女に成長が見られず、少し悩んでいる様子だったのですが、今回彼女の書いた手紙のことを話すと、「教えたことが身につけていることを確認できたのは初めてです」と、とてもうれしそうな表情を浮かべておられました。定期的に訪れている私たちが目に見えて感じる成長など、彼女の近況をお互いに情報交換することで担任の先生や中学の校長先生と連携をとりながら、彼女を支えていきたいと思います。今後、彼女は環境を変え、自立するために少し離れた全寮制の特別支援学校への進学を視野に入れているのですが、今回のことで、親元を離れ、特別支援学校に通っても、そこで学んだことを万石浦でも実践出来るようになるのではないかと期待を感じるようになりました。

【活動記録】 支援メンバー(10月19・20日) 甘利悠貴、今井美里、大林沙紀、藤原弘輝

寄付を頂いた方(5月25日～10月26日)敬称略 西郷政史メモリアル会、眞田美津子

!!! 寄付のお願い !!! 継続的な支援のために、お願い致します。

寄付を頂きました際には、お手数ですが右下記連絡先までご一報お願いします。

ゆうちょ銀行

店名:〇五八店(ゼロゴハチ店) 店番:058

番号:普通 3385189

ライオン学校(ライオンガッコウ)

※ゆうちょ銀行からの振込の場合

記号:10510 番号:33851891

グループ名:ライオン学校

TEL: 080-6554-8762(代表:今井)

Email: info.lionschool@gmail.com